様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ８ 月 ２９ 日現在

機関番号：２６４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2016
課題番号：２６３８１１３９

研究課題名（和文）人をケアする準専門職の経験による学びと「仕事の信念」に関する研究

研究課題名（英文）Experiential learning and work ethic in semi-professional carers

研究代表者
宮上　多加子（MIYAUE, Takako）

高知県立大学・社会福祉学部・教授

研究者番号：９０２５９６５６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では，福祉・医療分野における準専門職の経験学習プロセスを明らかにするとともに，準専門職の「仕事の信念」の構造および経験との関係を明らかにすることを目的とした．
資格として，介護福祉士・准看護師・保育士を取り上げ，社会人学生および現場の職員に対する個別面接調査により得られたデータを質的記述的に分析した．準専門職の経験学習は，コルブ(Kolb,K)が示しているサイクルをらせん状に辿るプロセスとして確認できた．「仕事の信念」は，「自身の力量向上への志向」と「ケア対象者への志向」に類型化され，2つの志向性は３資格ともに学生時代から保持していた．

研究成果の概要（英文）：In the present study, we sought to demonstrate the experiential learning process of semi-professional welfare and health care workers, and to clarify the relationship between their work ethic structure and experience.
We conducted individual interview-based surveys of adult students and workplace personnel who were qualified as certified care workers, assistant nurses, and childcare workers, and performed qualitative descriptive analysis on the response data.
Our results showed that the experiential learning process in semi-professionals is in fact a spiral-shaped version of the experiential learning cycle proposed by Kolb. Work ethic could be categorized into "intention to improve personal capacity" and "intention towards care recipients", with each of these traits being maintained by respondents in each of the three professions since their time as a student.

研究分野：介護福祉学

キーワード：経験学習　人材養成　ケア　仕事の信念　介護福祉士　准看護師　保育士

１．研究開始当初の背景

研究の背景として，超高齢社会においてケアニーズが増大していく中で，ケアに従事する人材の需給バランスが崩れ，福祉や医療の現場は慢性的な人手不足に陥っている．人材養成に関しては，少子社会により若年人口が減少していることから，福祉分野の教育機関では定員割れが続いている．しかし，近年の雇用情勢の悪化を背景に，離職者に対する就業支援策が実施されたこともあり，介護福祉士養成校で社会人学生が急増しているという変化がある(宮上 2012,宮上・田中 2013)．また，保育士資格保持者には，介護福祉士資格の取得期間短縮のしくみもある．加えて，申請者らの調査(田中・宮上 2015)では，介護福祉士や保育士の資格保持者が准看護師養成校に数多く入学しているという実態もある．このように，福祉・医療の分野では，人材が職種を超えて動いている状況が見られるが，学習者の立場からみると，「社会人の学び直し」の機会が増大しているととらえることができる．今後もこのような状況は継続すると予想され，多様な背景を持つ社会人の学習者に対して，職業経験や社会経験を活用したキャリア支援について検討していく必要がある．

生涯学習に関する理論の中で，人間が経験からどのように学んでいくのか，またその中で学習者の認識がどのように変化していくのかについて，そのメカニズムを明らかにする研究は経験学習論や変容的学習理論としてまとめられており，経験学習論の代表的な理論家としてはコルブ(Kolb,K)があげられる．コルブは，経験学習を 4 つの要素からなるサイクルとしてモデル化しており，同時にこのサイクルが生涯継続していくとして，らせん型の経験学習プロセスモデルを提示している（山川 2004）．また，松尾(2006)は，コルブの経験学習論のモデルを参考として実証研究を行い，IT 技術者や企業の営業職が熟達者に至る経験学習プロセスを明らかにしている．その中で，仕事に対する価値観や職務上で大切にしていることを「仕事の信念」と表現し，これが人の行動や態度を方向づけ，経験を意味づける働きをするとして，その重要性を強調している．

社会人の持つ経験については，成人教育学において学習者の経験は自他の学習資源としての価値を持つとされ，コルブの経験学習論においても経験によって獲得された概念が新たな学習によって修正・再形成されることが示されている．一方で，福祉・医療現場における職業経験の意味づけに関しては，一般に「現場で学ぶ」という価値観が存在している．しかし，経験から何をどのように学んでいくのか，またその過程において学習者の経験と新たな経験はどのように結び付いていくのかについて，実証的な研究の蓄積が少ない．そこで，他分野から移入した準専門職が経験から学んでいく様相を明らかにすることは，準専門職の職業人としての生涯学習を推進する資料となると同時に，提供されるケアの質向上や人材確保の方策に寄与すると考えられる．

２．研究の目的

本研究の問いは，「ケアに従事する準専門職は，経験からどのように学んでいくのか」である．

そこで，人が経験から学んでいく過程において原動力の役割を果たすとされる「仕事の信念」と，新たな経験が個人の中で意味づけされ，次の経験に向かうプロセスに着目する．対象として，介護福祉士・准看護師・保育士を取り上げ，社会人学生として資格を取得した後に，福祉・医療現場における仕事の中で，何をどのように学び，同時に仕事の信念がどのように変化していくのかを質的記述的な分析手法を用いて明らかにする．

研究課題は，①ケアに従事する準専門職の「仕事の信念」の内容とその形成過程を明らかにする，②ケアに従事する準専門職が現場の経験から学んでいく「経験学習の過程」を明らかにするである．

３．研究の方法

研究対象者は，准看護師・保育士の各養成校に入学した社会人経験のある学生および資格取得後に福祉・医療現場に就職した介護福祉士と准看護師とした．資格ごとに社会人学生・職員それぞれ 10 人～15 人程度に対して，順次個別面接調査を行い，得られたデータを質的記述的に分析した．同時に，各養成機関の教員に対して聞き取り調査を行い，学習環境や養成校における社会人学生への支援方法についての情報を得た．

調査内容は，自身の仕事についての考え方や価値観と，どのような学習や経験を経る中で自身の考えを持つに至ったかである．半構造化面接の手法を用いて，対象者に自分の考えを自由に語ってもらった．

得られたデータの時系列での分析や職種相互の比較によって，介護福祉士・准看護師・保育士という準専門職がどのようにして経験から学んでいるのか，また仕事の信念は，教育や経験を経ることによってどのように形成されるのかについて分析を行った．逐語録を分析する際には，質的分析ソフト MAXqda を使用し，分析や統合化の段階で研究分担者および研究協力者と適宜協議を行うことで，結果の確証性を高めた．

４．研究成果

(1)介護福祉士調査

対象者：介護以外の職業歴のある初任介護福祉士 7 人と 5 年以上経験のある介護福祉士 7 人

実施時期：2014 年 8 月～11 月

結果：初任介護福祉士 7 人の逐語録からは，36 のコードと 10 カテゴリーが抽出された．5

年以上介護福祉士 7 人の逐語録からは，40 のコードと 11 カテゴリーが抽出された．コードおよびカテゴリー相互の比較検討の結果，介護福祉士の「仕事の信念」は，【利用者志向】が中心であることが示された．また，【利用者主体か業務優先かの選択】を経験しながら【養成校での学びの意味】を内省していた．養成校での学びは，介護福祉士の「仕事の信念」に影響を及ぼし，経験を内省する契機になっていた．5 年以上介護福祉士からは，職場の環境づくりや看護あるいはソーシャルワークに関するデータが得られた．加えて，5 年以上介護福祉士は，【キャリア形成の課題】を認識していた．本研究では，その認識に対応した介護福祉士のキャリア形成支援の体系化と，それに連動した生涯学習理論に基づく現場教育のあり方の検討が急務であることが示唆された．
発表：雑誌論文④

(2)准看護師学生調査
対象者：入学前に福祉・医療分野での職業経験のある准看護学生 10 人
実施時期：2014 年 9 月～11 月
結果：2013 年度に事前調査として実施した個別面接調査の結果と合わせて，学生 20 人のデータを分析した．逐語録から抽出された 82 コードをもとに 18 カテゴリーを生成して相互の関係を検討した結果，養成校における学習プロセスは，5 つの局面として整理できた．考察にあたっては，コルブ(Kolb,K)の経験学習論に基づき，学習プロセスと仕事についての信念の変容について検討した．学生は，「福祉職から看護職への転職」「看護を実践的に学び始める」「自分自身と看護師像を重ねていく」「看護について仕事の信念をもつ」という局面を経る中で，仕事についての信念を固めつつ，将来のキャリアを描こうとしていた．
発表：雑誌論文③

(3)看護専門課程学生調査
　准看護師養成校卒業生の大多数が看護専門課程に進学している状況をふまえて，追加調査を行った．
対象者：入学前に福祉・医療分野での職業経験のある看護専門課程学生 12 人
実施時期：2015 年 8 月～12 月
結果：逐語録を分析した結果，71 のコードと 17 カテゴリーを生成した．カテゴリー相互の関係から，看護学生の経験学習の様相は，コルブ(Kolb,K)の経験学習プロセスに対応した 5 つの局面としてまとめられた．看護の仕事に対する認識の特徴として，ケアの経験を通して得た「人に対する思い」を基盤に置きつつ，「自分に対する思い」としては，自分が意図する看護実践のために力量を向上させる必要性を強く感じており，仕事の信念の変容と再形成が示唆された．
発表：雑誌論文②

(4)准看護師調査
対象者：福祉・医療現場で勤務する准看護師 12 人
実施時期：2015 年 11 月～2016 年 2 月
結果：逐語録を分析して得られたコードは 83，コードをまとめて生成したカテゴリーは 18 であった．福祉・医療現場で働く准看護師は，学校で学んだ看護の知識だけでなく，社会人経験や人生経験を自分の仕事に活用していることが分かった．また，業務において，准看護師と看護師に区別はないと認識しており，知識不足や責任の重さを感じていた．キャリアについて，医療現場の准看護師は，現場経験を積み看護師資格取得を目指していた．一方，福祉現場の准看護師は，看護職として必要な知識を得ることに意欲を示していたが，看護師資格取得への志向は低かった．
発表：雑誌論文①

(5)保育士学生調査
対象者：入学前に職業経験のある保育学生 15 人
実施時期：2016 年 8 月～9 月
結果：逐語録を分析して得られたコードは 43，コードをまとめて生成したカテゴリーは 11 であった．保育学生の経験学習に関する意識の特徴として，以下の 5 項目があった．①養成校入学の理由は，以前からの希望を実現，②学ぶ意欲を持って，社会人としての経験を活用しながら保育の勉強に取り組む，③学校や現場の学びの中で，自分なりの保育士像を創っていく，④保育をする際に大事にしたいことは，子どもの発達と気持ち，⑤資格を得て保育者として継続的に働きたいと希望している．
発表：未定

(6)養成校教員への聞き取り調査
①介護福祉士養成校の教員：2011 年 8 月 16 日～10 月 11 日,10 校,17 人（事前調査含む）
②准看護師養成校の教員：2013 年 9 月 26 日～2014 年 11 月 17 日,3 校,6 人（事前調査含む）
③保育士養成校の教員：2016 年 7 月 4 日～9 月 6 日,3 校,5 人
結果：介護福祉士および保育士養成校では，社会人としての経験を考慮した学習支援が行われていた．このことは成人教育学（アンドラゴジー）の原理に基づいた教育実践に当てはまると考えられる．一方，准看護師養成校の教員は，社会人学生の経験とは関係なく，看護の視点や知識を学ぶことを意識していた．また，准看護師試験合格を目標とし，さらに看護師資格取得を目指してほしいというキャリアパスへの思いが明らかになった．これらのことから，介護福祉士及び保育士養成校の教員は成人教育において，渡邊(2002)のいうファシリテーター的役割，准看護師養成校の教員は，教授的役割をとっていると考

えられる．
発表：学会発表①

(7)まとめ

本研究における経験の定義は，松尾(2006)の知見に従い，「人と外部環境の相互作用」という定義を用いた．また，「仕事の信念」については，松尾(2006)の定義を参考に「自分の仕事に対する価値観や，職務を実践するうえで大切にしたいこと」と操作的に定義して研究を進めた．研究課題は，①ケアに従事する準専門職の「仕事の信念」の内容とその形成過程を明らかにする，②ケアに従事する準専門職が現場の経験から学んでいく「経験学習の過程」を明らかにするの２つであるが，研究課題②については，福祉現場の初任および中堅介護福祉士調査結果をもとに検討し，雑誌論文①として公表している．ここでは，研究課題①の具体的課題として，「仕事の信念」を構成する要因，「仕事の信念」の福祉・医療現場の経験を通した形成過程，「仕事の信念」の職種による相違について明らかにするために，調査結果を用いて検討を加える．

介護福祉士養成校学生，初任介護福祉士，中堅介護福祉士，准看護学生，准看護師，保育学生に対する個別面接結果に基づき，資格取得を決意した段階から養成校での学びの経験や，福祉・医療現場での職業経験を経る過程と，その中で仕事に対してどのような価値観を持つに至ったかについて分析し，カテゴリーを生成した．表１～表６は，各調査から得られたカテゴリーの中から，経験学習プロセスにおける学習成果の活用と「仕事の信念」に関係していると考えられるカテゴリーを取り出したものである．また，図１は，福祉・医療分野での職業経験のある准看護学生の経験学習のプロセスを模式図として示したものである．

表１　介護学生のカテゴリー(宮上ら 2015)

１年生	２年生
職業として介護を選択	知識と実践をつなぐ
介護教育の意義	介護に関する視野の広がり
自身の価値や力を意識	自身の力量を高めたい
自身の働き方	具体的な働き方
利用者主体	利用者を理解

表２　初任介護福祉士のカテゴリー

項目	カテゴリー
仕事の信念	目標達成志向
	利用者志向
新しい状況に適用する	職場で自分の信念を通す方法
	多様な知識・視点を身につけたい
	基本業務を身につける

表３　中堅介護福祉士のカテゴリー

項目	カテゴリー
仕事の信念	目標達成志向
	利用者志向
新しい状況に適用する	管理職としての役割
	多様な知識・視点を身につけたい

表４　准看護学生のカテゴリー

局面	カテゴリー
看護について仕事の信念をもつ	看護は多くの知識と技術が必要
	看護の考え方や特徴が分かり意欲がわく
	技術・手技を確実に身に付ける必要性
	看護の理念や目的を意識する

表５　准看護師のカテゴリー

局面	カテゴリー
看護の仕事に必要な能力を考える	命を預けられている看護の仕事の責任
	知識不足や責任の重さを感じる
	福祉施設の看護職は高い判断能力が求められる
看護の仕事に向かう姿勢とやりがい	社会人経験や人生経験を看護に活かす
	利用者・患者主体のケアを意識
	仕事のやりがいや満足感
	福祉施設で働くことはメリットがある
	福祉施設での看護職の立場を意識
看護職としてのキャリア	働きながら必要な知識を学ぶことは基本
	看護職は経験をつむことが重要
	看護師資格のことは念頭にある

表６　保育学生のカテゴリー

局面	カテゴリー
学ぶ経験を通して自分の保育士像を創る	保育士としての子どもとの関係を再認識
	保育士としての力量を向上させたい
保育について仕事の信念を持つ	子どもの発達と気持ちを重視する姿勢
	保育士としての立場と役割を再認識
	地域とのつながりを意識化する

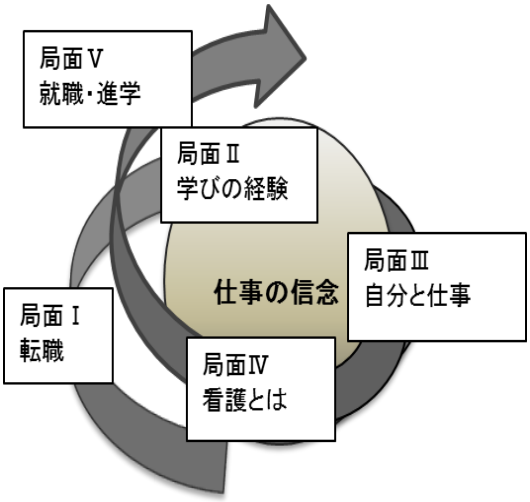

図１　准看護学生の経験学習プロセス

松尾（2006）は，職業生活において個人が経験から学んでいく能力を発揮する際には「仕事の信念」が影響するとして，一般企業の営業職を対象とした量的調査結果に基づき，「仕事の信念」を「目標達成志向」と「顧客志向」の 2 つに類型化している．さらに，ＩＴコーディネーターに対するインタビュー調査結果を質的に分析して，同様の構造を確認している．本稿では，松尾の知見を援用して検討を行うが，福祉・医療現場における職務内容に対応した表現とするため，「目標達成志向」を「自身の力量向上への志向」とし，「顧客志向」を「ケア対象者への志向」とした．そのうえで，表 1～表 6 のカテゴリーの中から，「自身の力量向上への志向」と「ケア対象者への志向」を示していると考えられるカテゴリーを表 7 に整理した．なお，アンダーラインを付したカテゴリーは，学生調査結果である．

表 7 に示すように，介護福祉士・准看護師・保育士としての自身の力量向上についての志向性は，３領域ともに見出せる．さらに，２つの志向性の萌芽は，学生調査結果においてもみられることから，準専門職養成教育の中でこれらの価値観が涵養されていると考えられる．資格別の特徴として，中堅介護福祉士は，現場の管理職としての役割を意識した志向性を持っていること，准看護師は，看護師資格を目標に置いているという点があげられる．両者とも将来のキャリアを描く上で，力量向上が不可欠であると認識していると言える．

ケア対象者への志向については，介護学生や准看護学生は，いわば教科書的なキーワードを述べているのに比較して，保育学生は，「発達」という保育の基本概念に基づきながらも，子どもとの関係性を築くことに価値を見出している．さらに，介護福祉士や准看護師は，利用者や患者と自身との関係を意識したうえで，相手の尊厳や主体性に価値を置く姿勢を保持していると考えられる．

表 7　資格別の「仕事の信念」の内容

資格	自身の力量向上への志向	ケア対象者への志向
介護福祉士・学生	自身の価値や力を意識 自身の力量を高めたい 目標達成志向 多様な知識・視点を身に着けたい 管理職としての役割	利用者主体 利用者理解 利用者志向
准看護師・学生	看護は多くの知識と技術が必要 看護の考え方や特徴が分かり意欲がわく 技術・手技を確実に身に付ける必要性 知識不足や責任の重さを感じる 福祉施設の看護職は高い判断能力が求められる 働きながら必要な知識を学ぶことは基本 看護師資格のことは念頭にある	看護の理念や目的を意識する 命を預けられている看護の仕事の責任 利用者・患者主体のケアを意識
保育学生のみ	保育士としての力量を向上させたい	保育士としての子どもとの関係を再認識 子どもの発達と気持ちを重視する姿勢

準専門職のもつ「仕事の信念」の特徴として，「自身の力量向上への志向」は職務を遂行するための知識と技術を確実に身に着けたいという意向が共通している．また，「ケア対象者への志向」は，ケア対象者の年齢や状況が違っていても，対象者を主体に置き，意向を尊重するというケア従事者としての理念は共通している．

このような対象者の主体性を尊重する，あるいは安全や成長発達を保証するための条件として，自分自身の力量向上が必要であると認識しており，知識や技術を身につけることでケアの質が保証されるという側面もある．従って，「自身の力量向上への志向」と「ケア対象者への志向」は相互関係があると言える．

福祉・医療現場における職業は，一般企業の営業成績のように数値で表現できる目標達成の指標がない．松尾(2006)は，目標志向性には「学習目標志向」と「業績目標志向」があり，両タイプの目標を持つことが必要であると述べている．すなわち，学習目標は知識・能力を獲得することを促し，業績目標は

既に持っている知識・能力を活用することを促す．この点については，今後の研究課題として，福祉・医療現場の専門職は「業績目標」に代わる何らかの目標を保持しているのか，それらの目標志向性と，ケア対象者への志向性はどのような関係があるかについて，詳細な調査と分析が必要であると考える．

＜引用文献＞

松尾睦(2006)『経験からの学習　プロフェッショナルへの成長プロセス』同文館出版.
宮上多加子(2012)「離職者を対象とした介護福祉士養成教育における社会人学生の認識－学びの経験に関する個別面接調査に基づく質的分析－」『介護福祉教育』17(2),98-106.
宮上多加子・田中眞希(2013)「介護福祉士養成教育における社会人学生の学びのプロセス－離職者訓練生と介護雇用プログラム生の学年による変化」『中国・四国社会福祉研究』2,13-29.
宮上多加子・田中眞希(2015)「介護雇用プログラム生の学びと仕事に対する思い－面接調査による３年間の変化の分析－」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』64,1-16.
田中眞希・宮上多加子(2015)「准看護師養成校で学ぶ社会人の学習や仕事に関する認識と職業経験の影響」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』64,61-72.
渡邊洋子(2002)『生涯学習時代の成人教育学－学習支援へのアドヴォカシー』明石書房,164-186.
山川肖美(2004)「経験学習―D.A.コルブの理論をめぐって」赤尾勝巳編『生涯学習理論を学ぶ人のために』世界思想社，141-169.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　4　件）

①田中眞希・宮上多加子(2017)「准看護師のキャリアと仕事及びケアに関する認識―福祉・医療現場で働く准看護師への調査を通して―」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』66,37-50.
https://u-kochi.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=441&item_no=1&page_id=13&block_id=21

②宮上多加子・田中眞希(2017)「看護専門課程で学ぶ学生の経験学習と仕事の信念に関する質的研究」『日本看護福祉学会誌』22(2),67-79.

③宮上多加子・田中眞希(2016)「准看護師養成校における社会人学生の仕事に対する思い―介護職経験者の学習プロセスの分析から―」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』65,1-12.
https://u-kochi.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=48&item_no=1&page_id=13&block_id=21

④河内康文・宮上多加子・田中眞希(2016)「介護福祉士としての職業経験と仕事の信念―経験学習論に基づく分析―」『介護福祉教育』21(2),46-55.

〔学会発表〕（計　4　件）

①田中眞希・宮上多加子・河内康文(2017)「社会人学生の学びを支援する教員の意識－介護福祉士，准看護師，保育士の比較－」，第23回日本介護福祉教育学会口頭発表（金沢）

②田中眞希・宮上多加子・河内康文(2016)准看護師のキャリアと仕事及びケアに関する認識―福祉・医療現場で働く准看護師への調査を通して―，第 24 回日本介護福祉学会口頭発表，長野

③田中眞希・宮上多加子・河内康文(2015)「専門職養成教育を通した社会人学生の仕事への『思い』の変化―介護福祉士養成校と准看護師養成校の比較―」，第23回日本介護福祉学会，金沢市

④河内康文・宮上多加子・田中眞希(2015)「介護福祉士としての職業経験と仕事の信念―経験学習論に基づく分析―」日本社会福祉学会中国四国ブロック大会第 47 回大会，松山市

６．研究組織

(1)研究代表者

宮上　多加子（MIYAUE，Takako）
高知県立大学・社会福祉学部・教授
研究者番号：９０２５９６５６

(2)研究分担者

河内　康文（KOUCHI，Yasufumi）
高知県立大学・社会福祉学部・講師
研究者番号：２０７２３４４８

田中　眞希（TANAKA，Maki）
高知県立大学・社会福祉学部・助教
研究者番号：６０３６８８５０

(3)研究協力者

辰巳裕子（TATSUMI，Yuko）
香川短期大学
野村　脩（NOMURA，Osamu）
南海福祉専門学校
臼杵百合子(USUKI，Yuriko)
佐々木則枝(SASAKI，Norie)
高松市医師会看護専門学校
山崎和子(YAMASAKI，Kazuko)
高知県医師会看護専門学校